

会報

第 112 号

平成28年2月24日
新潟県特別支援教育研究会事務局
新潟市中央区白山浦1-207-3
新潟市立鏡淵小学校内
Tel 025 (265) 4111
Fax 025 (265) 4112
発行: 文久堂

学校の総力で進める

特別支援教育



新潟県特別支援教育研究会
副会長 小林 修

私は平成10年度から三条市教育委員会で特別支援教育の仕事をやらせて頂きました。この年三条市の特別支援教育の状況は市全体で小学校が9学級33名、中学校が2学級6名、合計で11学級39名でした。それが、平成27年度は小学校が41学級173名、中学校が21学級90名、合計で62学級263名です。市町村合併があったとはいえ、年々児童生徒数が減少する中で、特別支援学級の在籍数は6倍強に増えました。全県でも同じ傾向です。これは、特別支援教育に携わる関係諸機関全ての皆様のお力で、相談・支援体制が整い、一人一人のニーズに対応した教育が行われ、確かな理解が得られてきた結果です。

います。「お店を開こう」の单元では、秋の文化祭で、「ひまわりカフェ」をオープンするために手作りビーズアクセサリーとコースター制作に根気強く取り組んでいました。私はこの根気強い子どもたちが自慢です。それと同じに担任や指導員がとても自慢です。朝早い出勤から遅い時間まで子どもたちの情報交換や指導内容の打ち合わせ、その日の子ども達の記録、家庭への連絡等、エネルギーに仕事をします。それが、私から見ると実に楽しそうなのです。その結果、かわりの苦手な子どもたちが日々、着実に成長をしています。また当然ですが、子どもの成長は交流学級や学校全体で支えていることも大きいです。

新潟県では、「一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育の推進」をすすべての学校・学級において特別支援の視点に基づく学校経営・学級経営の充実が急務です。また、国の動きとして、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築への動きが加速しています。障害者差別解消法が平成28年4月1日より施行されます。障害のある人々に対して必要な環境整備などの合理的配慮を行うことや生活環境や学習方法のユニバーサルデザイン化に努めること等が言われ、「何をやったらよいの?」と負担に感じている人もいるかもしれません。しかし、難しいことはありません。個に即した「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」が作成され、その子にかかわるすべての人が、計画を共有して温かな指導が行われ、成長の様子で修正を加えていくことで上手いくと勤務校の取組で強く感じています。支援の仕方ですとときは、悩みを抱え込まず、職場で協力してよりよい方法を見つけていきましょう。

27年度 主な事業報告

〈理事会・評議員会〉

第一回理事会・評議員会 (5月29日)
第二回理事会 (2月1日)

〈研究大会〉

○上越地区 柏崎・刈羽大会
(8月19日) 柏崎文化会館アルフォーレ他
約420名参加

○中越地区 燕・弥彦大会
(11月12日) 燕市吉田産業会館
約170名参加

○下越地区 新潟大会
(11月25日) 北区文化会館他
約310名参加

〈研究部会〉

○知的障害部
(8月4日) 秋葉区文化会館
180名参加

○自閉症・情緒障害部
(8月20日) 中之島文化センター
307名参加

○言語・難聴部
(7月29日) 天寿園
90名参加

〈全特連関係〉

○関プロ茨城大会
提案者2名、司会者2名派遣

(8月7日、筑波大学キャンパス内)
○全国大会神戸大会 会長派遣 10月15・16日

〔平成28年度関プロ新潟大会関係〕
○関プロ拡大実行委員会 (5月29日)

○関プロ実行委員会 (2月1日)

〔会報〕
会報11号発行 (7月)
会報12号発行 (2月)

平成27年度 各地区大会報告

上越地区・柏崎・刈羽大会

「二人一人の自立と社会参加を目指した一貫した支援の在り方」を大会主題に、全体会と分科会を行いました。幼、保、小、中、特別支援学校、高等学校の教職員や保護者、地域住民、福祉関係者など五百名に迫る参加がありました。

六つの各分科会では、話題提供者の分科会テーマに基づく実践が紹介され、大いに参考になりました。その後の小グループ協議は六、七人の班編成とし、日頃の実践や悩みについて情報交換を行いました。最後は分科会指導者から、分科会テーマにかかわる国・県の動向や参考事例などを分かりやすく説明していただきました。

続く全体会の全体指導では、県教育庁義務教育課特別支援教育推進室指導主事石黒英己様から、「新潟県における特別支援教育の現状と課題」と題し、ご指導をいただきました。県の施策である「障害のある幼児児童生徒に対する教育環境の整備」「早期からの教育相談、就学に係る支援体制整備の推進」「職業教育の推進」「学校や地域における『交流及び共同学習』の推進」について具体的に説明していただき、参加者が現状と課題を認識することができました。

その後、FR教育臨床研究所所長花輪敏男様から「不登校の理解と具体的支援」特



別支援教育の視点を持ちながら」と題しご講演いただきました。教育文化講演会の参加者は千名を超えました。支援の究極の目標は児童の学校復帰であり、そのためにも学校は「かかわる」ことにより問題解決を図る努力をすること、そしてかかわり方の技術を研修する必要があることを説明いただきました。支援の段階を「認識の段階」「援助・指導の段階」「チェックの段階」「積極技法の段階」「再登校の段階」「フォローの段階」に分け具体的手法を紹介していただきました。

今後の一貫した支援の在り方について確かな一歩を踏み出す大会となりました。
(事務局 柏崎市立大洲小学校)

中越地区・燕・弥彦大会

大会主題「子ども一人一人の可能性を伸ばす特別支援教育の展開」のもと、地区内外から小・中・特別支援学校の教職員、保護者、各種関係機関等から約二百人の参加を得て、分科会と全体会を開催しました。

開会式では、燕市教育長上原洋一様、弥彦村教育長林順一様からご祝辞と特別支援教育への激励をいただきました。

分科会では、次年度に新潟市で予定されている「関ブロ新潟大会」に合わせて①通常学級における特別支援②自閉症・情緒障害学級（小学校）③



通常学級における指導（言語）④自立活動⑤教科指導（中学校）⑥交流及び共同学習の六つとしました。日々の教育活動の中で担当者が真摯に取り組んできた実践発表を軸としながら、自立と社会参加に向けた支援と連携の在り方について活発な協議が行われました。

続く全体会の全体指導では、県教育庁義務教育課特別教育推進室指導主事山田澄人様から、「本県の特別支援教育の現状と課題」をテーマに、インクルーシブ教育システムの構築について、国の動向や関係法令などに基づき具体的なご指導をいただきました。参加者アンケートでは、今大会への肯定的評価が八十六%を超えており、参加者が日頃の疑問や考えを振り返り、明日の授業や学級経営に生かす具体的なヒントを得ることができた大会となりました。
(事務局 燕市立燕西小学校)

下越地区・新潟大会

大会主題「多様な学びの場で、共に学ぶ特別支援教育の充実を目指して」のもと、新潟市北区文化会館をメイン会場に、下越地区から幼小中高の教職員、保護者、各関係機関から約三百十人の参加者で、小雨の中、大会を開催することができました。

全体会では、新潟市教育委員会教育長前田秀子様から祝辞をいただきました。続い



て県教育庁義務教育課特別支援教育推進室指導主事大竹嘉則様から「本県の特別支援教育の現状と課題」をテーマに、インクルーシブ教育システムの構築と自立と社会参加を目指すための施策である、①障害のある幼児児童生徒に対する

る教育環境の整備 ②早期からの教育相談、就学に係る支援体制の推進 ③職業教育の推進 ④学校や地域における「交流及び共同学習」の推進について、具体的なデータや資料を基に御指導いただきました。

六つの分科会では、発表者の実践を基にフアシリテーション形式で協議会を行い、各分科会とも活発で有意義な話し合いが行われました。アンケートでは、「良い雰囲気でした話し合いが行われ、各グループがシェアリングできたのでとても良かった」、「協議メモが事前に設定され、論点が明確で話し合いがスムーズにできました」という高評価をいただきました。また、保護者から「参加してよかった。各学校でも特別支援教育についてもっと保護者に紹介してもらいたい」などのご意見もいただきました。

運営面では、午後日程の開始時刻を検討すること、会場の準備・後片付けの段取りを工夫することなどが課題として挙げられました。指導者の皆様をはじめ発表、司会、記録の皆様、そして大会関係者の皆様に深く感謝申し上げます、報告いたします。

(事務局 新潟市立葛塚東小学校)



全特連関プロ・茨城大会 (県内派遣：提案者2名・司会者2名、本部役員8名)

- 「体育科教育におけるユニバーサルデザイン」
～特別支援学級の「マット運動」における身体の協応能力を育てる支援～
胎内市立中条小学校 高山 雄一 教諭
- 「経験で育むキャリア教育」～模擬会社経営を通して
新潟県立佐渡特別支援学校 本間 哲郎 教諭

全特連報告

関プロ茨城大会に参加して

胎内市立中条小学校 高山 雄一
第10分科会「教科の指導(体育・保健体育)」で、体育科教育におけるユニバーサルデザインについて提案発表いたしました。司会は、新発田市立御免町小学校の須貝雅浩先生から務めていただきました。

体育の授業では、子どもたちの身体能力、運動感覚等を適切に育てながら、運動の楽しみ方を学習します。学んだことは、将来的に身体操作能力や日常生活向上にも寄与していくと考え、様々な動きを体験させていきます。しかし、体育の授業は、動きが伴うために授業のマネージメントをしっかりと行うことも大切です。指示の出し方、並べ方、教具の置き方等については、参加者の皆さんからたくさん質問をいただきました。日々の授業におけるニーズが高いことを、発表から感じました。

指導助言者の先生からは、体育的な視点から見た小さな支援が有効であったこと、介助員との連携が具体的であることを評価していただきました。また、個々の能力を適切に把握すること、ねらいと実態に合った教材・教具を使うことが大切であるとご示唆をいただきました。

本大会の経験で得たことを、今後の授業に生かすとともに、これからも子どもたちの心身を健やかに育てていきたいと思います。実践を続けていきたいと思います。

関プロ茨城大会に参加して

新潟県立佐渡特別支援学校 本間 哲郎
八月七日、茨城県つくば市で開催された東甲信越地区特別支援教育研究協議会に参加させていただきました。宮本伸也先生のご講演や自分自身の発表を通して多くのことを学び、そして多くの同志がいることを確認することができました。

私は「キャリア教育」というテーマで、本校中学部で取り組んでいる「模擬会社運営」について提案発表をさせていただきました。自分たちで生産した商品を自分たちで売る活動や社員研修として行う職場見学、忘年会や社員旅行という名前で行う校外学習など、学校での活動を「会社」という名のもと、将来の働く自分をよりイメージさせやすくするという取組の紹介でした。司会を引き受けてくださった佐渡市立金井中学校の滝田先生のお力添えをいただき「何とか発表を終えることができました」というのが正直な気持ちです。参加者の皆様からは、評価の仕方や実際の進路へのつながりなど、多くの質問や意見をいただきました。また、それに十分に応えることができないう自分の勉強不足を改めて痛感する機会にもなりました。

このような貴重な機会を与えてくださったことに感謝するとともに、茨城大会で得たものを生かして、より一層努力していきたいと思えます。

祝 全日本特別支援教育研究連盟功労者表彰

鷺津 毅 史 様
(副会長 新潟市立東特別支援学校校長)
長年にわたり当県の特別支援教育の発展に貢献され全国大会で表彰されました。

27年度各研究部の研修の成果

知的障害部

「地域で働きイキイキと生きていくために、今からできること、考えてほしいこと」の演題で、株式会社バオバブ African Bakery Cafe ナミテマネージャーの工藤知子様、特定非営利活動法人のんぴり青山の会統括所長の寺口能弘様、新潟市障がい者就業支援センターこあサポートセンター長の樋口督水様の三人の方々より、ご講演いただきました。

障がいのある方の積極的な社会参加を目指した具体的な取組やその思い、さらには雇用の様子や就労支援の様子について、企業と福祉施設と行政のそれぞれの立場からお話いただき、現段階のみならず、将来を見据えた指導に大いに役立つ、大変有意義な研修会となりました。

自閉症・情緒障害部

国立特別支援教育総合研究所教育支援部主任研究員の海津亜希子様より、『読めるって楽しい！子どもにニーズに応じた学習指導』の演題で、ご講演をいただきました。

通常学級の異なる学力層の子どものニーズに対応した指導や支援を行う、多層指導モデルMIMの理念と特殊音節の読みの指導方法を教えていただきました。読みのアセスメントを行い、実態に即した段階的な指導を行うことが、子どもの読みの力と学習意欲の向上につながることを実際の取組を基に示していただきました。

多くの参加者から、「早期に学習につまずく可能性のある子どもの読みの力を引き上げることができるとMIMの指導を学校全体で実践したい。」という声が寄せられました。

言語・難聴部

東京学芸大学教育学部教授の小池敏英様より『「読み書き」につまずきのある児童の理解と支援』の演題で、ご講演をいただきました。

「書き」のためには、「読み」の力を伸ばすことが大切で、ひらがなの場合は、単語をまとまりとして読めること、漢字の場合は、漢字単語の視覚的イメージを高め、読めるようにします。また、音韻性と視覚性の読み書き障害があり、それぞれに対する具体的な支援について紹介していただきました。大学の研究室で取り組んでいる漢字学習室の様子やすぐに授業に使える「読み書き支援プリント」、「漢字支援ソフト」等を紹介していただき、実践的で有意義な研修をすることができました。

編集後記

県特支研だより No.「112号」をお届けいたします。お忙しい中、多くの皆様から、玉稿を賜りました。感謝申し上げます。本号が特別支援教育の一助となることを願っております。(事務局)

県特支研のHPをご覧ください

全特連の茨城大会や各地区大会、研究部研修会の様子が見られます。
URL : <http://www.niigata-net.or.jp/kentokusiken>
メールアドレス : tokusi@niigata-net.or.jp

第1次案内

全日本特別支援教育研究連盟
関東甲信越地区特別支援教育研究協議会
新潟大会のご案内

平成28年2月25日(土) 新潟県立西蒲小学校

1 大会テーマ
一人一人が輝き、共に新しい時代を生き抜く
特別支援教育の展開

2 主催
全日本特別支援教育研究連盟 関東甲信越地区特別支援教育研究協議会

3 後援
新潟県教育委員会 新潟県教育会
新潟県教育協会 新潟県教育連盟
新潟県特別支援教育研究協議会 新潟県特別支援教育研究協議会

4 日程
平成28年2月25日(土)
会場 新潟県立西蒲小学校 新潟県立西蒲小学校
9:00 開会式 9:30 開会式 10:00 開会式 10:30 開会式 11:00 開会式
11:30 開会式 12:00 開会式 12:30 開会式 13:00 開会式 13:30 開会式 14:00 開会式

平成28年度実施の関ブロ新潟大会第1次案内はTopページからご覧いただけます。

第49回 全日本特別支援教育研究連盟

関東甲信越地区特別支援教育研究協議会

茨城大会



平成27年8月6日(木)・7日(金)は第49回全日本特別支援教育研究連盟関東甲信越地区特別支援教育研究協議会茨城大会が開催されました。

6日(木)は関東甲信越地区特別支援教育連盟理事会が開催されました。28年度「関東甲信越地区特別支援教育研究協議会」の活動方針が決定しました。また、28年度新潟大会実施計画「学習等の説明書」が決定し、新潟県新潟大会実行委員会が行いました。

平成27年8月7日(金)は、筑波大学 筑波キャンパスで開催された。28年度「関東甲信越地区特別支援教育研究協議会」の活動方針が決定しました。大会テーマでは、「一人一人が輝き、豊かに生きる」をテーマに特別支援教育の充実を目指して、大会に参画していたが、関東甲信越地区約1400名の教育関係者が集まりました。

始めに、筑波大学大会会館に全体会が参りました。開会行事では、ご挨拶や前副議長表彰が参りました。そして、次期副議長である新潟県代表として副議長へお言葉を交わす機会がありました。副議長は、副議長として参り、

平成27年度 新潟県特別支援教育研究会

地区大会の紹介

- 1 上越地区・・・柏崎・羽田大会
 - 日 時 平成27年9月19日(木)
 - 会 場 柏崎市文化会館(アルフォーレ) 他
 - 事務局 柏崎市立大洲小学校
- 2 中越地区・・・燕・弥彦大会
 - 日 時 平成27年11月12日(木)
 - 会 場 燕市吉田産業会館
 - 事務局 燕市立燕西小学校
- 3 下越地区・・・新潟市A大会
 - 日 時 平成27年11月25日(木)
 - 会 場 新潟市北区文化会館 他
 - 事務局 新潟市立葛塚東小学校

新潟県特別支援教育研究会 平成27年度 各研究部の取組

- 平成27年度は、各研究部が、各自の取組を進め、成果を上げてまいりました。各研究部の取組を紹介します。
- ◎知的障害部 (事務局:新潟県立西蒲小学校)
- 1 研修会実施 新潟県特別支援教育研究会 新潟県特別支援教育研究会
 - 2 研修会実施 「指導の自立、社会参加に向けて」
 - 3 日 時 平成27年10月15日(土) 13:00~15:40
 - 4 日 時 平成27年11月20日(土) 13:00~15:40
- ◎自閉症・情緒障害部 (事務局:新潟県立西蒲小学校)
- 1 研修会実施 新潟県特別支援教育研究会 新潟県特別支援教育研究会
 - 2 研修会実施 「指導の自立、社会参加に向けて」
 - 3 日 時 平成27年10月15日(土) 13:00~15:40
 - 4 日 時 平成27年11月20日(土) 13:00~15:40